

# 生成系 AI 活用に関する指針を大学生はどう考えたか

玉田 和恵

江戸川大学

ktamada@edogawa-u.ac.jp

松田 稔樹

東京工業大学

matsuda@et4te.org

現在、ChatGPT などの生成系 AI が社会で大きな話題となり、教育機関ではどう扱われるべきかが盛んに議論されるようになってきている。文部科学省も 2023 年夏前を目途にガイドラインを提言することとなっており、大学や学会などからもさまざまな利用指針が提言されている。本研究では、大学生が生成系 AI を現在どのように捉えているのか、また、今後の高度情報社会を生き抜くために自分たちにはどのような利用指針が望ましいと考えるのかを検討した。

## 1. はじめに

Society5.0 の実現に向け、自分が問題に直面した際に、高度情報技術を活用して目的や解決策を適切に発想し、判断できる人材を育成することが急務となっている。今後ますます情報化、グローバル化が進展し、多様な事象が複雑さを増す中、進化した人工知能 (AI) が様々な判断を行ったり、身近な物の働きがインターネット経由で最適化される時代となっている。

現在は、ChatGPT などの生成系 AI が社会で大きな話題となり、教育機関ではどう扱われるべきかが盛んに議論されるようになってきている。中央教育審議会「デジタル学習基盤特別委員会」では、学校現場での生成 AI の利用について政府全体の議論も踏まえて、2023 年夏前を目途にガイドラインを提言することとなっている。また、大学や学会などからもさまざまな利用指針が提言されているが、教育や研究の分野によって大きな差異が見られる。

本研究では、大学生が生成系 AI を現在どのように捉えているのか、また、今後の高度情報社会を生き抜くために自分たちにはどのような利用指針が望ましいと考えるのかを検討する。

## 2. 研究方法

本研究は、2023 年 5 月に江戸川大学メディアコミュニケーション学部情報文化学科の 2 年生 41 名「情報社会と職業」、3 年生 79 名「情報文化キャリア総合」(5 月 9 日)を対象に実施した。

授業前に、「生成系 AI の認知」「利用経験と利用内容」「利用希望と希望内容」「生成系 AI に対する意見や感想」を匿名で調査した。匿名で調査した理由は、レポート課題などに活用していることなども実態として素直に記述してもらうためである。

授業の中では、「生成系 AI の仕組み」「現在どのようなことに活用されている」「社会で生成系 AI についてどのようなことが議論されているか」「他大学ではどのような利用指針が提言されているか」

を講義した。

その際に他大学の利用指針として取り上げたのは、それぞれタイプの異なる東京大学、上智大学、芝浦工業大学のものである。

その後、4 名ずつのグループに分かれ、「生成系 AI 活用のプラス面・マイナス面」「他大学利用指針についてどう考えるか」「本学はどのような利用指針を提言すべきだと考えるか」についてディスカッションを行った。最後に、「各大学の利用指針に対する意見」「どこの指針に最も賛同するか」「本学はどのような利用指針が望ましいか」を事後調査として個別に実施した。

## 3. 実践結果

### 3.1 事前調査

生成系 AI の認知・使用経験については、図 1、図 2 のような結果であった。本学科は文系ではあるが情報系の学科である。生成系 AI を認知している学生は 91%であるにもかかわらず、使用経験がある学生は 35%とやや少ないことが明らかになった。どのようなこと活用したかという問いに対しては、「会話をして遊ぶ」が最も多く、「検索の

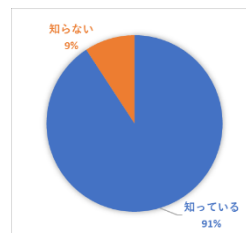


図 1 生成系 AI の認知

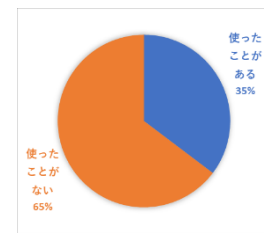


図 2 生成系 AI の使用経験

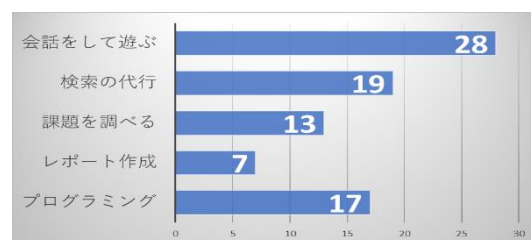


図 3 生成系 AI で何をやったか

代行」「プログラミング」の順である。匿名で調査をしたため「レポート作成」と正直に回答した学生もいた。利用希望について82%の学生が希望をしており、「プログラミング」に活用したいという希望が最も多かった。本学科の学生の多くはIT系の就職を希望しているため、プログラミングが必須だと考えているからだと思われる。

### 3.2 生成系 AI のプラス面・マイナス面

生成系 AI についてのグループディスカッションでは、将来活用が広がった場合のプラス面・マイナス面について表1のような意見が抽出された。

表1 生成系 AI による将来のプラス・マイナス面

プラス面	マイナス面
仕事の効率化(文章の作成、添削) データの進化が進んでいけば医療の世界などでも使える 成績の差が生まれにくくなる 誰でもある程度水準で文章やプログラミングができるようになる 人件費削減、人手不足の解消 コールセンターの人件費が大幅にカット	我々の仕事/職業が減る プログラマーの仕事が減る 思考力の低下、勉強しなくなる AI に頼り過ぎていて、新しいものが生まれにくくなる 個人情報流出の可能性 著作権問題、犯罪への悪用、依存の可能性 責任の所在が不明確

### 3.3 他大学の利用指針に対する意見

東京大学の指針は、生成系 AI が抱える問題点に言及しつつ、利用を禁止するだけでは問題は解決しないと、「積極的に良い利用法や新技術、新しい法制度や社会・経済システムなどを見いだしていくべきだ」と指摘している。学生からはこの見解に賛同する意見が多く、「どのようにしたら問題を生じないようにできるのか、その方向性を見出すべく行動することが重要というところに納得する」「生成系 AI を使用しているかどうかを判別するために対面のヒヤリングなどを用いる提言がよい」「相談するシステムという表現がよい」という意見が多く見られた。

上智大学の指針は、レポート・論文・課題などへの生成系 AI の使用を厳しく禁止した内容となっている。学生からは、「生成系 AI が社会で使用されていくのはほぼ確実なのに、何の経験も積めないのは大学としてどうなのか」「最新の技術を使わないのは、未来に影響する可能性もあるのではないか」という反対意見が多かったが、『「本人が作成したものではないので、使用を認めない。」という方針は的確なものだと思う。誰かの意見を貼り付けただけで自分の能力は使っていないため、成績をつけるためにも使用を控える方針がいいと思う」という賛成意見も見られた。

芝浦工業大学の指針は、建学の精神に則り、リスク、懸念点はあるが、その極めて高い有用性から、今後活用が必須となるため生成系 AI の利用を推奨するという内容になっている。学生からは、「生成系 AI との向き合い方を各自に考えさせる

方針がいい」「時代の進化に則り活用することを許可しているところがとても素晴らしいし、江戸川大学もそうしてほしい」「生成系 AI にへの向き合い方として、楽をするためではなく、自身の学びを深めるためだ」という点が、個人的に納得のいく対処法である」という賛成意見が多く寄せられた。

どの大学の指針に最も賛同するかという質問については芝浦工業大学の指針に賛同する学生が70%と最も多かった。記述についても簡潔にリスクと課題が明記されているのも学生には好評だったと考えられる。また、文系ではあるが情報系の学生のため最新の技術を活用することが推奨されている点に賛同したものと考えられる。記載されている点も好評だった原因と考えられる。

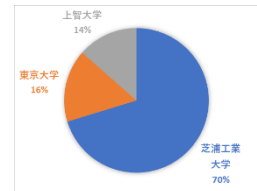


図4 どの指針に賛同するか

### 5. まとめと今後の課題

本研究では、大学生が生成系 AI を現在どのように捉えているのかを検討した。多くの学生は認知しているが実際に活用している学生は少ないことが明らかになった。活用に当たってはプラス面・マイナス面を検討することができ、大学から発信される指針には、簡潔にリスクと課題が明示した上で、最新の技術を活用することを妨げない内容を求めていることが明らかになった。

今後は、積極的に良い利用法や新技術、新しい法制度や社会・経済システムを考える力を育成する方法を検討する必要がある。

#### 参考文献

- (1) 中央教育審議会「デジタル学習基盤特別委員会」: 生成 AI (Chat GPT) の学校現場での利用に関する今後の対応(2023).
- (2) 東京大学: 生成系 AI(ChatGPT, BingAI, Bard, Midjourney, Stable Diffusion 等)について, <https://utelecon.adm.u-tokyo.ac.jp/docs/20230403-generative-ai> (2023年5月8日参照).
- (3) 上智大学: ChatGPT 等の AI チャットボット(生成 AI)への対応について, <https://piloti.sophia.ac.jp/assets/uploads/2023/03/27162222/23f430e7f216cbe188652f8a6855c493.pdf> (2023年5月8日参照).
- (4) 芝浦工業大学: ChatGPT など生成系 AI について, <https://www.shibaura-it.ac.jp/news/nid00003130.html12>, (2023年5月8日参照).